

農村へ呼びかく

リーンスを初めとしてアリアンサ、又近くはアルバレス・マシヤードに於て開催される農事講習會並に農産物品評會は、在伯同胞の農業に對する進歩改良を促すものとして一般から非常な注意が向けられてゐる。將來に望みをかけた事は嬉しい、が過去を顧みるだけの餘ゆうは持ちたい。

江越技師

茲に掲載する江越、ロゼリオ兩技師の審査及び採擇は客月リーンスに於てなされたものゝ概要である。

珈琲出品總數を一覽するに大体

乾そう方法が不充分であつた事

で過乾なるものあり、又乾そう

不充分なりしものあり、又余り

早く採收したるやに認めらるゝ

もの等あり、乾そうの適度が品

質に多大の影響を及ぼすと云ふ

事が集出したる事は日伯親善を如

事に表はしたる事と考ふる次第

である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

今回の農事講習會はリーンスに於

て第二回目の開催であるが品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

今回の農事講習會はリーンスに於

て第二回目の開催であるが品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

であるかを證明するものであり

盛大になりましめた事は此の不況

致して當州農業の不況時に對す

當州政府の技術官にも出張を煩

りたる所、前回に比較し益々

盛んに表はしたる事と考ふる次第

である。

又品評會は主催の農事講習會並に

農産品評會に於て所感の一端を

述ぶる事は私の誠に光榮とする

所である。

又邦人及び伯國人の多數の人々

が如何に農事の改良増殖に熱心

母 近 信 ◇

全國中等校野球大會

大爭霸戦展界さる
技術伯仲、試合白熱、人氣沸騰！

壯美快技の大繪卷

壯烈な展界

天下の金貸
收容された

不撓の銳氣をこめて熱練された全國中等校球界の精華を萃め、盛夏の甲子園球場に展界される第十六回全國中等学校優勝野球大會は八月十三日その幕を切つて落された。今まででは全國各地の豫選地区に旋轉してゐた幾十萬のファンの興趣は甲子園頭の博撃に移つてこゝに凝視の焦點は結ばれた。

松山商快勝

勢頭の第一戦は松山商業の壓倒的勝利に歸した。グラウンドに失策に發し遂に自滅に類する最期を経てた事は聊か意外とする足らう。(スコア、八一)

果然大接戦

第二戦鹿児島二中と小倉工業の無處來の両チームに對し、三番側スタンンドの觀衆は小倉のたる所をはらみ試合は收拾され功してこの危機を脱し觀衆の賞讃と拍手を浴びて戦ひを進め勝敗は全く豫想を許さなかつたが十三回まで進んだその裏方に破綻を招いて慶應の力闘空しく惜散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

次いで北海中學は優勝圈内に

と傳へられる和歌山中學に向

ふに廻し、傷つける石澤を投手

に起用して悲壯な試合を開始し

たが頭既に猛打をあげて波瀾

重慶九點を許し、その後は

抑だしの一点を得たが力の相違

心してゐるがこれの洗禮を受け

ざる年はなく、殊に本年の如き

その結果は甚だしく一家全滅な

悲劇も演ぜられる

於て年々數多の巨費で防護に腐

敗は全く豫想を許さなかつたが

振りだ。帽子が降る、手拭が舞

ふ、シャツが飛ぶ、急テンボの

なガーメンが横く。かくて第六回

北の意氣すさまじく憤然奮起せ

る大連は瀬戸際の第八回裏に至

り一點、二點、四點、六點

何といふ素晴らしい觀衆の熱狂

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の結果で遂にこの壯烈な

始まり、さすがに大試合、寸分の隙

もない。兩軍無得點のまゝ凌轢

散した。(スコア、四八一)

和中大勝す

惡疫腸チフスの

新豫防薬を完成

発熱、疼痛をもたらさぬ

効力十分な内服薬

臺灣の地方病とも云はれてゐる

悪疫腸チフスに對しては當局は

さるの喊聲。遂に大連最後の一

四對二の

不許半ば無前例に至りして、大體の屋體が編成される筈のものである。但しこれもとん／＼拍子に運んでの事である。これには附きものの損失補償と云ふ恩典がなければおいでと手を出す財團がない。そこでこの計画が開議で大蔵省をウソと云はせて、議會にかゝつて、通過して始めて法律となねば此の計畫も各案も開から開、六道の辻にさまよわねばならなくなると云ふのである。大蔵省をウソと云はするが一骨や二骨ぢやあるまい。如何に店開き早々で何かめざしい仕事がしたいとあせつてゐる拓務省としても茲が難關であらう。西北線の邦人の借金は千萬圓と見做されて居る。其の期限は來年の八月頃から危機期に亘る事である。

州政府の外債二千万磅が農業を必要とする所以を説いて居にかゝつて、更に農業者のみならず之に頼りて生活せる邦人各種事業者全体会の頭上に打撃を與ふるに至る可き」と脱線してゐる。が如書を見ると、先づ調節書はそれとして其の趣

州政府調節局の座礁顛末を述へて居るが、之は聊か在留民として發表する場合に、考慮の餘地がある。調節局の恩恵を蒙つた好況時代は棚に上げて不況になつたからとて調節局の座礁を母つてもなき人物だから此人を見たてて今度は西線で名文と評判される居る多羅間起草委員長の所謂名文なる請願書は、州政府の外債二千万磅が農業者には何等の影響をも及ぼさず却つて珈琲を首筋め云々と外債の立ても珈琲市況に効果を主張を擧げて、母國政府の救済を要する所以を説いて居にかゝつて、「更に農業者のみならず之に頼りて生活せる邦人各種事業者全体会の頭上に打撃を與ふるに至る可き」と脱線してゐる。が如書を見ると、先づ調節書はそれとして其の趣

州政府調節局の座礁顛末を述へて居るが、之は聊か在留民として發表する場合に、考慮の餘地がある。調節局の恩恵を蒙つた好況時代は棚に上げて不況になつたからとて調節局の座礁を母つてもなき人物だから此人を見たてて今度は西線で名文と評判される居る多羅間起草委員長の所謂名文なる請願書は、州政府の外債二千万磅が農業者には何等の影響をも及ぼさず却つて珈琲を首筋め云々と外債の立ても珈琲市況に効果を主張を擧げて、母國政府の救済を要する所以を説いて居にかゝつて、「更に農業者のみならず之に頼りて生活せる邦人各種事業者全体会の頭上に打撃を與ふるに至る可き」と脱線してゐる。が如書を見ると、先づ調節書はそれとして其の趣

州政府調節局の座礁顛末を述へて居るが、之は聊か在留民として發表する場合に、考慮の餘地がある。調節局の恩恵を蒙つた好況時代は棚に上げて不況になつたからとて調節局の座礁を母つてもなき人物だから此人を見たてて今度は西線で名文と評判される居る多羅間起草委員長の所謂名文なる請願書は、州政府の外債二千万磅が農業者には何等の影響をも及ぼさず却つて珈琲を首筋め云々と外債の立ても珈琲市況に効果を主張を擧げて、母國政府の救済を要する所以を説いて居にかゝつて、「更に農業者のみならず之に頼りて生活せる邦人各種事業者全体会の頭上に打撃を與ふるに至る可き」と脱線してゐる。が如書を見ると、先づ調節書はそれとして其の趣

にめ爲の孫子

美田を買へ!!!

維新の巨頭南州翁は子孫の爲め美田を買わす。然り翁はじて通用せらる。浪花管の文句で、國危して忠臣出で家貧にして孝子出づ。然り不肖等は後者を御勧めし度い今や財界の不況は世界的にして我日本移民は僅かに伯國を除いては他に無いのである。然も當聖州内の殊野は既に僅少にして折角の大望も何れに投資せるやに惱む人も多からうと思ふ。不肖等多年の經驗。現在では變更線鐵道工事の傍ら土地物色の折柄計らずも當バアルバライゾに於て最好適地を見付け、子孫の爲め美田を買ふ可く御勧めする。當所はアラサツーバを離る事六十三キロメートルにして近々郡制を敷かる可く、既に市街地は恐ろしい發展振を示して居る。更に現工事は遅くも八月末迄には完成の豫定で期して將來の發展美田たるを失わず。更に地主共現況に鑑み最も容易なる方法に商談出來居れば此期を失して再び機會は無いのである。

暗夜の一燈迷ふ
勿れ道未だ遠し

A PREDILECTA.
E SUAS FILIAES
Matriz - RUA 15 DE NOVEMBRO, 51-A

FILIAES		
Rua Xavier de Toledo, 4 -	Tel.	4-7444
Largo S. Bento	"	2-5709
Av. S. João, 182	"	4-2230
Av. Rangel Pestana, 182	"	9-0746
Rua Itoby, 48	"	2-1554
Rua Libero Badaró, 19	"	2-1531
Avenida Celso Garcia, 742		
R. Domingos de Moraes, 144	"	7-2886
Rua 11 de Agosto, 54-A		
Rua da Moóca, 442		
Rua São Joaquim, 118-A		
Largo Anna Rosa, 2	"	7-2411
Rua Direita, 9-B	"	2-2071
Avenida Tiradentes, 155	"	4-0712
Alameda Gleba, 64		5-3473

口テリヤは

北はととたつたはバは
近い所で販賣する事ナカベナ鐵
供給される事ナカベナ鐵
以上に上る事ナカベナ鐵
地主に上る事ナカベナ鐵
住宅賣付の絶好の土
業家にて最適の地、詳細は
Rua 3 de Dezembro 6a. São Paulo

Pharmacia Popular
DE HOEPPNER & SILVEIRA
Av. Minas Geraes-Promissão - Caixa, 101

獨逸製 農業用薬品 醫療器具類

**Pharmacia Santa Maria
de José Fernandes**
R. Oswaldo Cruz 71. C.P. 248. Tel. 97-
ARACATUBA. - N. O. B.

リサンタマ薬店 | オアステ日の | レア
郵電局 | ススラ價本特ダツマ
函電話 | 提人諸藥業ブチロ
二九四七八番番市 | ルツド一
一七ド一 | 供諸藥業ブチロ
氏道蘭ラフン、エリマ
には | 葵エバエリマ

The advertisement features a large, dark leather suitcase at the top, and below it, a smaller, rectangular trunk or case. The text "F. Ambrosio & Cia." is prominently displayed in large, bold, serif capital letters. Below this, the address "Rua José Bonifácio, 30" and phone number "Phone 2-1298 — Cmae, 752 SÃO PAULO" are given. The overall layout is clean and professional, typical of early 20th-century commercial printing.

屠殺殘物肥料
窒素含有量 四·五〇%
三百二

肥料界の覇者アルモール
コチャ方面の方は—アルコベルデ街
三百八十番の本社デポジトヘ
アルモール印肥料 (Aubo Arrou)

**Rua São Benito, 46 Tel. 2-3944
SÃO PAULO**

地在々所務事

内所務事線更變ゾイラバルーアバ
(留バーツサラア) 番八〇二函郵

尙文成の道は生産率の多大なる此の地方に於て初め得らるゝものにして當方面在住百家族内外の我同胞は現在三年から四ヶ年目に千本に付百俵の收穫率を持つ　土地はアラ市を去る五十キロより初まり他に見る事を得んや

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonez de maior circulação no Brasil

Anno XVI

São Paulo — Quinta-feira, 25 de Setembro de 1930

Num. 695

Noticias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN)

NIPPAK SHIMBUN

Propriedade e direcção de:
SACK MIURA

Redacção, Administração e Oficinas
Rua da Liberdade, 146
Caixa Postal, 375
Telephone, 2-3926
Endereço Telegráfico "NIPPAK"
SÃO PAULO - BRASIL

ASSIGNATURAS Para o Brasil:

Por anno	30\$000
Por semestre	16\$000
Número avulso	\$300
Para o Exterior:	
Por anno	60\$000

ANNUNCIOS

Temos à disposição dos interessados uma tabela completa de preços para anúncios nesta folha. Telephone 2-3926

EDIÇÃO DE 8 PÁGINAS

Espantoso!

Com este título publicou o "Correio da Manhã", do Rio, o interessante tópico que transcrevemos:

"Isto se passa quasi nos nossos antipodes.

Os operários de varias fábricas de sedas de Fushini, no Japão, tendo estudado a situação em face da importância dos seus salários, reuniram-se depois em grande manifestação, pedindo que fossem tomadas providencias a respeito.

Pasmem os leitores: as conclusões a que haviam chegado esses proletários indicavam que as fábricas sofreriam as consequências da baixa nos preços da seda; e para que os patrões recuperassem uma parte dos prejuízos causados por essa baixa, pediram, então, uma redução de vinte por cento nos seus salários. Redução de salários, nos tempos que correm!

E' preciso acrescentar que os capitalistas de Fushini parecem dignos desse gesto dos seus operários, porque todos recusaram atender á generosa iniciativa.

E ha, no Brasil, quem oponha objecções á imigração da gente dessa raça extraordinária!

AVIAÇÃO

aviador Bromley desiste da travessia do Pacífico

OHMINATO, 18 — O aviador Bromley anunciou que faria uma nova tentativa de vôo directo trans-Pacífico, provavelmente em companhia de outro aviador, visto que o seu companheiro Gatty afirmara que a travessia era impossível, devido ao mau tempo reinante no Pacífico do norte. Agora, entrevistado pelo jornal "Japan Advertiser", que se publica em Tokio, em língua inglesa, Bromley declarou que abandona, por este ano, a tentativa dessa travessia.

DR. S. TAKAOKA

MEDICO-OPERADOR
Rua Fagundes, 8
Tel. 7-4683

S. PAULO

Os factos curiosos e notáveis

Augmento do matrimonio no auge da crise

Segundo o relatorio da província Fukui, cuja população é de 597.000 almas e a superficie de 4.160 Km. q. houve cinco mil setecentos e sessenta e oito casamentos, doze mil novecentos e sessenta e nove nascimentos, e oito mil, quinhentos e deserto mortos. Comparando este numero com os annos passados, verifica-se

um augmento de cento e setenta e nove casamentos, de setecentos e vinte e oito nascimentos duzentos e quarenta e sete mortos. E' um facto notável que nunca-se viu assim, sendo assim interpretado:

Por causa da crise que está no auge, os paes se apressam em fazer casar as filhas sem quasi preparo algum, contra o costume japonês que exigia das filhas, quem se casavam, um bom numero de "kimono" e "tansu", armário para os "kimono". Uma das causas da redução dos nascimentos seria o da limitação de concepção que procuram as pessoas ilustradas.

Na media diaria notam-se trinta e dois casamentos, setenta e dois nascimentos e quarenta e sete mortos, sendo que o augmento natural de vinte e cinco almas por dia tendo ainda os casados como factores de augmento no anno vindouro em diante.

Isso não é só no Brasil que acontece; no outro lado do globo os jovens e as jovens estudantes, em vez de passarem as suas férias de verão, ou no retiro litoral ou na casa dos paes, onde se repousariam sem pensar no apuro em que se acham os paes, resolvem procurar empregos, com que possam tirar uma parte do recurso para o estudo, auxiliando assim os paes, embora seja insignificante.

Vêm-se na rua moços educados a vender pães, apregoando entusiastas.

— Que numero? Faça o favor! As vózes maviosas da telefonista são da meiga estudante...

Nos balcões das lojas figuram inúmeras alumnas das escolas secundarias e até das superiores, em cujos rostos se lêem as resoluções definitivas para lutar contra a crise!

Da Liga dos Professores vêm as correspondencias indagando-lhes o uso do ordenado que elles ganham e a opinião sobre a sociedade obtida por meio de seus trabalhos.

— Como?... Que é de tempo para tal? Não! não! Vamos á Irente! não temos tempo a perder! E' grave a situação, em que estamos!

E' verdade que nos achamos numa situação seria e gravíssima. E' por isso, porém, que se necessita de uma vida divertida. Espectáculos, jogos, esportes, festas, procuram os lavradores. Não são mais como os lavradores antigos que se contentavam só com o ganhar, ganhar dinheiro.

Quasi em todas as colonias japonezas no interior do Estado ha associação dos moços japonezes e estes procuram animar o esporte nas colonias, realizando todos os annos a festa esportiva nas épocas convenientes.

O dia 7 de Setembro era um dia de tempo óptimo, favorecendo os jogos e espectáculos que as colonias japonezas realizaram para a commemorarão do dia da independencia brasileira.

Amontoam-se sobre a mesa as cartas das colonias, relatando os aspectos do dia e os resultados do jogo.

CRISE E ESPORTE

Crise? Não ha crise no mundo esportivo. Venda espantosa dos artigos esportivos no Japão

Em quanto a voz da crise alarmava, a animação esportiva se avoluma, captando todo o povo japonês. Ao passo que todos os artigos comerciais, sem exceção alguma, vão se amontoando no stock, não sabendo encontrar saída, os generos esportivos sóam como nunca.

Entre outros, os de «base-ball» mostra a sua venda espantosa; é que, sendo o «base-ball» o jogo predilecto daquele povo, especialmente dos estudantes, vai se realizar o jogo, promovido pelo jornal "ASSAHI", em que se disputará o campeonato collegial de todo o território japonês. Não só os artigos para o «base-ball», mas sim todos quantos são de esporte.

Morreu na agua e não morreu afogado

Quando os filhos acompanham o enterro dos paes, o caso está na ordem natural. Mas muitas véses acontece que os filhos precedem aos paes em se despedir do mundo, sendo acompanhados por estes na sua procissão funebre. Os progenitores diriam: —Se eu pudesse ir em lugar do filho...

Se, porém, a morte viesse após longo tempo de sofrimento, pre dizendo o passamento, a magoa dos paes seria menor do que quando o filho falecesse por algum acidente.

No domingo proximo passado a mãe assistiu toda a scena dolorosa da morte do filho na agua.

Oscar Fukugawa, de 16 annos de idade, alumno do Gymnasio de Independencia, filho de Satsuzen Fukugawa, japonês, secretario do Consulado Geral do Japão, acompanhou os paes ao campo de Ciub Japonez em Blucklin Paulista. En quanto o pae estava jogando «tenis» o moço acompanhado de mãe, foi com dois collegas ao rio para nadar. O rio estava com a agua avultada e correnteza forte. Um dos collegas não quis nadar. Ele e outro entraram na agua ficando a mãe na margem. Os dois atravessaram uma corrente, chegando a uma rocha que se achava num ponto perto da margem. A mãe disse:

— E' preciso que nades melhor.

— Vamos atravessar para outro barranco! disse ao collega.

Talvez quisesse mostrar á mãe a sua habilidade no nado. O collega negou, dizendo que era perigoso.

— Não ha perigo! Vamos atravessar que a mamãe depois nos vai buscar!

Oscar, resoluto, pôe-se a nadar, vencendo a corrente vertiginosa,

UMA idéia erronea e frequente entre os povos occidentaes é a de que o Japão não possuiu eminentes figuras femininas no domínio da literatura. Mas aquelles que se dedicam realmente ao estudo das coisas do Extremo Oriente sabem da existencia, na sequencia dos séculos, de inúmeras poetisas japonezas, peritas em sua arte.

Na modalidade poética do Dai Nippon denominada *haikai*, a senhora Chiyo impõe-se como uma autoridade, como uma mestra. Não existe talvez na littetatura do imperio oriental elemento feminino de igual talento ou que desfrute de maior e mais justo prestigio.

O *haikai*, ainda chamado *hokku* é a forma menor que os versos japonezes podem apresentar. Compõe-se de dezessete syllabas apesar, ao passo que a *tanka* posse trinta e uma syllabas, dispostas em linhas de cinco, sete, cinco, sete e sete syllabas. O *haikai*, consistindo em tres linhas de cinco, sete e cinco syllabas, pode ser considerado como uma abreviação da *tanka*.

O *haikai*, por muitos apreciado como o triunfo do sistema poetico japonês, corresponde aos nossos epigrammas. Esta forma poetica recebeu o seu primeiro e grande impulso no inicio do decimo sexto seculo, impulso este comunicado pelo bonzo Yamasaki Sôkan (1465-1553). Notabilizaram-se mais tarde pela excellencia de seus *haikais* Arakida Monitake, Matsounaga Teitoku, Yaçoubara Teishitsou, Nishiyama Sôinn e sobretodos o famoso Matsuno Bashô.

Bashô foi o homem que conseguiu fazer do *haikai* uma obra de genio. Teve numerosos imitadores, entre os quais se distinguem dez de seus alunos, os «dez sabios» (*Jittetsou*): Enomoto Kikakou, Hattori Rancetsou, Moukai Kyorai, Morikawa Hyoroku, Kakauji Shikô, Naito Joço, Shida Yaka, Kawai Sora, Tatchibana Hokoushi e Ouchi Etsoujian. Além dos «dez sabios» a escola de Bashô teve muitos outros representantes, por exemplo: Sampon, Izembô, Tchi-

A vida no Japão e no Brasil

No Brasil vive-se, mesmo no maior auge da crise; no interior ha vastíssimas terras que produzem o de que se precisa para viver. A terra não nos nega os alimentos, só trabalhar. Mas no Japão, não: a gente trabalha como burro e sae devendo! O missionário Nakata que esteve de visita aqui no anno passado, falou a verdade:

— No Brasil todos se esforçam para ganhar e no Japão lutam para não morrer.

A terra ja cansada não é capaz de produzir suficientemente sem lhe dar adubo, abundante adubo. Quando os produtos agrícolas estão baratos, ai dos lavradores! Passam num apuro que nem podem quasi comer e ainda por cima

saem devendo... Os impostos são caros e até por uma hora tem que pagar-o!

E como os cães famintos se atiram sobre um pedaço de osso abandonado na rua, não deixam escapar um negocio que lhes pareça relativamente bom. Viram ouvia que depois da ratificação do Conselho Naval de Londres devia ter o excesso da renda destinada á defesa nacional e já sobre elle..... A Liga dos Lavradores em todo o paiz apresentou á autoridade o protesto, exigindo redução do imposto.

Que gente! Que tamanho desasco! Em vez de viver tão apertados, não sei porque é que não vêm ao Brasil. Passa uma vida farta... e a gente vive cinco anos a mais.

NOTAS AGRICOLAS

Nova riqueza Paulista

S. Paulo tem agora na sua produção de milho uma nova fonte de riqueza de incomparável importancia.

A Corn Products Refining Co., entrando em entendimentos com a lavoura paulista para a compra de quasi toda a safra annual milheira, pagando-lhe preço compensador, é um poderoso estímulo á cultura desse producto. Assim, quando todos os artigos lutam com a falta de mercados consumidores, inesperadamente abre-se para S. Paulo possibilidades de ser o milho um dos seus valores economicos de maior peso na sua balança comercial.

Para se ter uma impressão da importancia da companhia que vai comprar a S. Paulo quasi toda a sua exportação de milho, basta dizer que ella tem a capacidade de consumir mil saccos de sessenta kilos diarios e trezentos mil annualmente.

S. Paulo está admiravelmente preparado para fornecer milho á poderosa companhia norte-americana. Em 1929, segundo as ultimas estatísticas, S. Paulo produziu mais de vinte milhões de saccos de sessenta kilos, de largo consumo interno.

Como se vê, a cultura do milho assegura ao grande Estado um lucro extraordinario.

Ao chegar quasi perto do barranco doutro lado, o moço gritou e voltou atraç. Mas, exausto, antes de chegar á rocha, donde partira, começou a ser carregado de agua. Os outros pensavam que o moço estivesse nadando. Subito, levanta os braços e sacode-os rapidamente. Um menino, que estava entao na margem, pediu socorro. Os homens que estavam jogando «tenis» correram ao rio, e um delles atirou-se na agua com roupa e sapato, enquanto outro sahia de barca. O primeiro, chegando-se do moribundo, pegou-o pela perna, procurando alcançar a outra margem, de que estava mais perto. Tendo chegado ao barranco, agarrou num galho que se lançava sobre a agua. Mas infelizmente quebrou-se aquele e o homem mergulhou-se na agua inesperadamente. Afogado, quasi morreu este, salvando-se a custo. O corpo do moço, abandonado, afundou-se completamente.

A procissão funebre saiu da casa ás dezessete horas do dia seguinte. Enquanto os alumnos fardados do Gymnasio de Independencia se mantinham em continência, o caixão, carregado por seis collegas de Oscar, passou por entre duas filhas, em que estavam os alunos. Dahi alguns minutos, o corpo do filho amado, a quem se dedicou a mãe durante dezessete primaveras, dirigiu-se ao Cemiterio de S. Paulo, onde jaz á espera da visita dos parentes e dos collegas. Na porta da casa, ficou só a mãe que caiu em planto amargo.

Louças, Artigos Japonezes e Nacionais

K. NISHITANI

IMPORTADOR E EXPORTADOR

R. Conceição, 88
End. Teleg. NISHITANI
Caixa do Correio, 1134
RIO DE JANEIRO

calligraphia dos homens illustres. Na loja encontravam-se poemas chineses, versos communs e notadamente *haikais*, que despertaram muito cedo a mais viva curiosidade de Chiyo. O velho pae os costurava ler para a filha, explicando-lhe ao mesmo tempo sua significação. Não admira assim que Chiyo, embora muito criança, se sentisse capaz de compor *haikais*.

Em uma certa tarde de outono, o pae de Chiyo ficou surpreso ao ver quão attentivamente a menina contemplava um bando de patos selvagens voando sobre a casa, para desaparecer pouco depois nas plantações de arroz.

Muito mais surpresto ficou quando ouviu a filhinha repetindo para si um *haikai* que improvisara acerca do vôo dos patos:

Hatsu-kari ya
narabete kiku wa
Oshu koto.

Os primeiros patos, este anno,
Passam em ordem solene...
Mas o seu cacarejo é tão triste para mim!..

Consideram os japoneses que os primeiros patos selvagens que avistam, no decorrer do anno, anunciam a aproximação do outono. Compreendendo-se assim que elles tragam ao homem uma significação triste.

Pareceu a todos admirável que uma criança de sete annos produzisse tão lindo e delicado *haikai*. E o pae e os vizinhos de Chiyo encorajaram a menina em seus ensaios e em seus esforços.